

実習指導者スキルアップ研修会報告書

日 時：令和2年2月15日（土）13時から17時

会 場：山口県立大学 北キャンパス2号館306号教室

テ ー マ：知識と実践の融合～ソーシャルワークを言語化する～

参 加 者：45名（内、非会員5名）

報 告 者：企画担当理事 尾中未来

報告作成日：2年2月17日

報告

久留米大学文学部社会福祉学科の片岡靖子教授をお招きし、ソーシャルワーク理論・モデル・アプローチについて学習し、今の学生が標準装備しているものについて学ぶことで実習指導や実践の根拠について言語化することの重要性を学んだ。今回は山口県立大学と共催で開催した。

まず相互作用モデル3つにより、状況を理解し、今ここで何が起きているのかを理解する、そして実際に援助を行う理論として、介入理論、様々なアプローチがあり、この二つを使って、実践・援助が説明できることが必要であると学んだ。特にシステム理論では、直接的に対応すると別の問題を起こしてしまう、具体的事例を交えながらの説明があり、このように対応したら何が起きるのだろうと考える視点を持つことの重要性を改めて学んだ。問題の原因を探るのではなく、システムの問題と考え、何が起きているのかを客観的に見る、「何故」ではなく「何が」に焦点をあてるのが相互作用論のポイントであると学んだ。また、例えば家族システムへの介入について、「この家族とのバウンダリーに透過性がないからクローズドシステムだ」というような説明ができなければ認定社会福祉士は通らないという厳しいお話もされ、受講者も身の引き締まる内容であったと思う。日頃自分たちが何の理論やアプローチに基づいて実践を行っているのか、リフレクションを行うことが重要であり、実践を言語化することは社会への説明責任であるということ強く意識させられた。そのことが根拠ある実習指導にもつながると理解することが出来た。最後に自分のアクションプランをたて、グループで共有し終了したが、大変有意義な研修であった。



